

西成瀬歴史散歩

～三二～

Vol.1 令和3年 7月発行

西成瀬地区交流センター運営協議会

〒019-0711 増田町荻袋字真当 72

TEL : 45-2657 FAX : 45-4092

・はじめに

西成瀬地区交流センターでは、地域の貴重な歴史や文化、史跡を後世へ伝えていきたいという思いから、勉強会『歴史・文化を学ぶ会』の実施や、『西成瀬歴史散歩』など歴史資料をまとめた冊子を発行してきました。

そんな、数ある資料の中から「ここが重要!」「これは要チェック!」という情報を厳選してご紹介いたします。

今回のテーマ：

菅生三ヶ村（菅生・鍋ヶ沢・安養寺）の開村

◆菅生開村

いつ? ^{げんな} 元和7年(1621)

だれが? 駒木村(現湯沢市岩崎町仁井田)の^{おおるいはやと} 大類隼人



地名の由来: 当時この地は一面菅が生えた谷地原であったことから

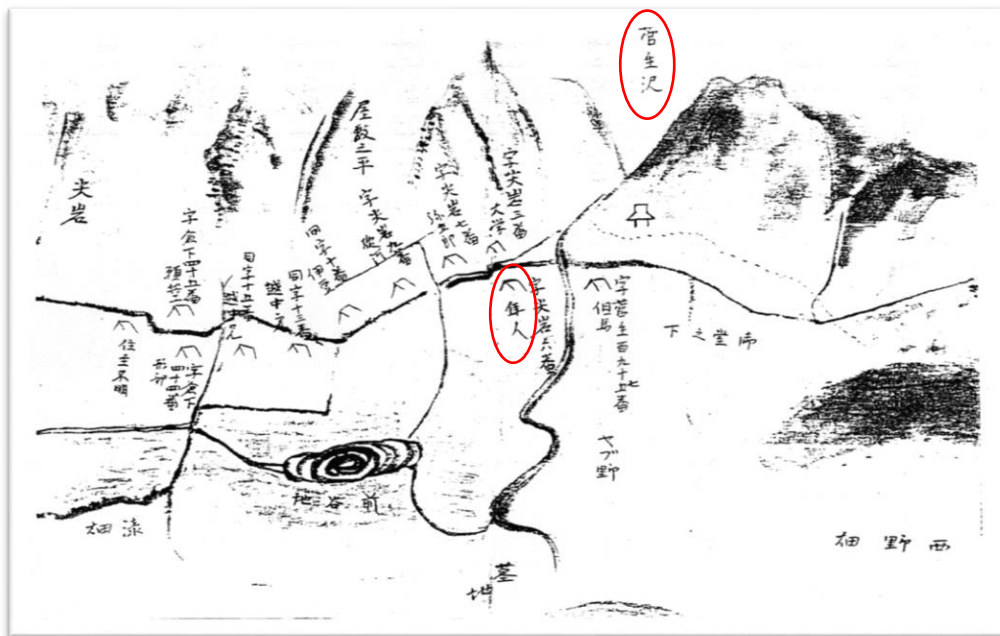


※菅(スゲ) = 植物、湿った場所などに見られる多年草

^{かさ} ^{みの} 笠や蓑の材料としても使われる

★菅生村の始まりは、古来野山で人のいない地でしたが、大類隼人と仲間数人が荒地を開発し一村を建てたと伝えられています。

開村と同時に隼人は^{きもいり}肝煎(村の世話役)となりました。



開村当時の菅生村
絵図。
菅生沢という地名
や、隼人の名前も
見られます。
(○印)

裏へ続く

◆安養寺開村

いつ? ^{かんえい}寛永紀元(1624)

だれが? ^{えっちゅう}遠藤越中・^{するが}遠藤駿河 仙台士族の兄弟



地名の由来:

説① 集落周辺には寺社に関係のある地名(稚子沼、経塚、阿弥陀森、紙子沢、安養寺野、安養寺後など)があり、その昔、川殿に寺があって安養寺と称した説があるが歴史的形跡はない。

説② 土地の人は安養寺を「アンニョウジ」と発音していることからアンニョウとはアイヌ語の「木積場」のことであり、ジは複数であることからアンニョウジとは木島が沢山ある所という意味になる。

※「安養寺」の由来は諸説ありますが、現在は説②が有力とされています。

◆鍋ヶ沢開村

いつ? ^{かんえい}寛永紀元(1624)

だれが? ^{たじま}阿部但馬・石川〇〇(氏名不詳)



地名の由来:集落のうしろにある沢の姿が鍋の鉦つるに似ていることから、おそらく地形から呼ばれたものと思われる。

★大類隼人と共に菅生を開いた後の寛永紀元(1624)、遠藤越中・駿河兄弟が安養寺、阿部但馬と石川氏が鍋ヶ沢へと移り住み、それぞれの地を開拓したとされています。開村後、菅生・鍋ヶ沢・安養寺の三村は『菅生村』と呼ばれていました。

◆1621⇒2021

最初に菅生が開村したのが1621年、そして今年(2021)年。

菅生・鍋ヶ沢・安養寺の三ヶ村は開村から400年という節目の年を迎えました。

西成瀬地区交流センターでは、これを記念するため実行委員会を立ち上げ、各種事業を計画しています。(詳しくはセンターだよりでお知らせします)どうぞお楽しみに!



■西成瀬の歴史資料をご活用下さい

「西成瀬歴史散歩」平成21年作成・平成26年復刊

「西成瀬文化財写真集」平成27年作成

「文化財一覧と分類」令和2年作成(西成瀬文化財写真集の補助資料)

入用の方はセンターまでお問い合わせ下さい。